

血小板減少症

英語名 : Thrombocytopenia

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

血液の凝固に重要な役割をはたしている血小板の量が減少する「血小板減少症」は、医薬品によって引き起こされる場合もあります。

何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合は、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「手足に点状出血」、「あおあざができやすい」、「出血しやすい（歯ぐきの出血・鼻血・生理が止まりにくい）」

1. 血小板減少症とは？

血小板とは、骨髄中で巨核球から生成される、核のない小さな細胞（2～3 μm ）で、出血時の止血、血液の凝固に重要な役割を担っています。

血小板数の正常値は15～35万/ mm^3 で、通常10万/ mm^3 以下を血小板減少症としています。血小板数が5万/ mm^3 以下になると、ちょっとした打撲であおあざが出来て、それが大きくなったり、歯磨きの時に出血したり、生理出血が止まりにくくなって出血量が増えたりする傾向があります。このような症状がなくても、突然の出血が皮膚にあおあざ、口腔内の粘膜からの出血、鼻血、血尿、黒色便あるいは血便などとして認められることがあり、血小板数1万/ mm^3 以下になると、頻度は高くありませんが脳内出血など重い症状をきたすこともあります。

医薬品の服用を中止し、適切な管理、治療を行うことによって、多くは約1週間ぐらいで血小板数は回復し始めます。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「手足に点状出血」、「あおあざができる」、「出血しやすい（歯ぐきの出血・鼻血・生理等が止まりにくくなった）」などの症状がみられた場合で、医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。特に抗がん剤や抗生剤での報告が多くあります。

日頃から服用している医薬品名、服用量、服用開始時期等の医薬品情報をおくすり手帳に記載しておくことは副作用を疑う場合に非常に大切な情報となります。受診時には必ず持参し、担当医師に知らせてください。また、実際に服用している医薬品を持参するように心がけてください。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

※ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

（お問い合わせ先）

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話：0120-149-931（フリーダイヤル）[月～金] 9時～17時（祝日・年末年始を除く）